

この次の考へ物

- (一) Utae (結付る)といふ言葉の中、一字だけ置き代へると全く反對の語になります。あて、ごらん。
- (二) 自分のものであつて、自分よりも自分の友だちに多く使はれるものは、なんでしよー？
- (三) 春の高い人は。いつも怠者だといはれる譯は、なぜでしよー？



家庭



子供を叱ることに付きて

ふみ子

兼て待ちもうけて居た夏休も來ましたので、去る十日には愛らしい兒等と、しばしの別をつけて歸宅いたしました。處が休になりましたからは、ほとんど連日降りつゝいて居りますので、引こもつて、かれこれと用事をかたづけて居りましたが今日は、めづらしくも好い天氣になりましたから勇みたつて、さる知人を訪問するために、出かけ

ました。そうして道で、ある紙屋に立ち寄りました。

此の紙屋の店さきには、七つ八つ位な男子が餘念なく西洋紙の色紙の細長い斷屑を持つて、切りに、びら〜と振り廻はして居りました。其傍には阿母さんらしい人が見えましたが、この人は私が買物にまゐりましたものですから、急に立ちあがりました。

すると、いきなり、大聲で、

「何ですわねー、うるさい、あつちにしまつてお

いで」

と、ひどく〜叱りつけました。

しかられた子供は、びつくりして、ちいさくなくて奥の方に飛び入つてしまいました。しかし、また出てまゐりまして、まもなく、遊びはじめま

した。

私は買物をしまつて、金を拂ひました。此時他に三人の客があつたものですから、阿母さんは子供に

「あちらで、おつりを十錢もらつておいで」

と、いひつけました。子供は

「いや〜」

と、のみいうて動きません。そうすると、阿母さんは何か、つぶやきながら、客をほつて自らたつて行きました。

この子供は二つの場合に付て、どんな感を持つたでせうか。前者は後者よりも遙に悪い事であると思つたに相違ありません、何せなれば二つの場合とも阿母さんは喜ばぬ風でありましたが、同じ喜ばぬ中にも、其顔色といひ、言語づかひといひ、

前者の方が餘程はげしかつたのであります。

すべて、幼児は何によつて、これは善い、あれは悪いといふことの見わけを付ける様になるのでございませうか、申すまでもありません、阿母さん方のおしめしになる手本によるのが第一でございます。即ち阿父さんや、阿母さんの、おつしやること、なされることは何でも善いので、そうない事は悪いとおもひます。次には同じ善い事、また悪い事でも、其ほめられ方、また、叱られ方によつて、善悪の度合を知るのてございませう。即ち常ならぬ顔色や言葉で、さとされ、また叱られた事は、極々悪い事であると感じますが、さもない事は、それ程にも感じません。

そうして見ると、まゝ、心なくなされてある叱るといふことは、實に幼児の訓練上大なる關係

のあるものではございませんか、決して／＼輕る輕るしくしてはなりません。また、自分の一時の機嫌にまかせ、感情にまかせて、わけもなく、ふるまつてはなりません。

まづ、氣を平かにして、これは道德上の善であるか、悪であるか、また善悪何れにもつかぬことであるかを知ることが必要でございませう。さて、愈悪であるならば悪として重いか、輕いかといふことを知らなければなりません。そこで悪として重いものであるならば、顔色をかへ、言語をかへて、しつかりと、さとし、また叱るのでございませう、其代り善とも悪ともつかぬことを悪として取扱つてはなりません。

私は紙屋の阿母さんの叱り方は、丁度、反對であつたかと思ひます。子供が阿母さんの言ふこと

を聞かぬのは悪い事で、紙を振り廻すのは善でも悪でもありません。ですから後の場合こそ、さとしもし、叱るべき時で、はじめの場合には、だまつてはつて置いてよいのであります。但し、たとひ後の場合でも、多くの人前で、さとしたり。叱つたりすることが、よいか、わるいかといふことは別問題でございしますが、とにかく前の場合に顔色をかへ、言語をわらへ、けて叱ることはいりません。紙を振り廻すことは悪いことではありませんが、若しやめさせやうと思ふならば、和らかに言つて聞かせばよいので、悪として取扱つてはなりません。

私は、今、氣の毒にも紙屋の阿母さんを例にだしました、これは誰しもあやまり易いことでございしますから、多くの子供を世話して居る我々、

また子供を持つて居る阿母さん達は、大に氣をつけないければならぬこと、思ひます。

曉の目をさませとや蓮の花

子供は

ひさ子

子供は即ち子供であつて、大人ではありません。ですから大人とちがうところが澤山あります。身心がまだ大人ほどに發達して居らない、といふことは、之は今私が申すまでもないことでございしますが、この大人ほどに發達して居らないといふところが、子供の予供たるころ、子供の愛すべきところ、教育に十分氣をつけなければならぬところかと思ひます。私は今思ひつき次第に、子供はなんなものと思ふことながらを申しませう。但し六か